

②現職議員との意見交換会、議会傍聴、行政との意見交換を実施する（11月から12月）。

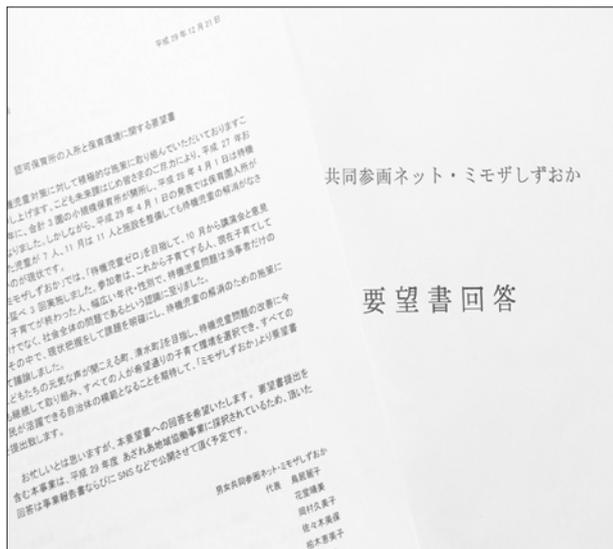
実施内容：行政との意見交換会（清水町）

「認可保育所の入所と保育環境に関する要望書」を提出し、要望書回答を頂いた

実施日時：2017年12月21日（日）

13：30～15：00

実施場所：清水町役場3階 町長応接室



③参加者間でネットワークを形成し、県議会・市町議会議員・審議会委員に女性が選出されるようバックアップする。当会には女性の市町議会議員や審議会委員経験者等も含まれるため、参加者全体の今後の政治参画活動を具体的に発案し、サポートする。

④事業後もカフェを開き、継続的に政治参画や政策について話し合う。

3. 実施日時

【第1回講演会】2017年10月22日（日）

13：30～15：30

【第2回講演会】2017年11月12日（日）

13：30～15：30

【第3回意見交換会】2017年11月26日（日）

13：30～15：30

【行政への提言】2017年12月21日（木）

13：30～15：00

4. 実施場所

【第1回講演会】

三島市民文化会館（ゆうゆうホール）

第2会議室

【第2回講演会】

三島市民文化会館（ゆうゆうホール）

第2会議室

【第3回意見交換会】清水町地域交流センター
会議室2

【行政への提言】清水町役場3階 町長応接室

5. 対象者

政策決定の場への参画に意欲のある女性。およびそれを支援する活動を希望する市民。「待機児童ゼロ」問題に関心がある、もしくは政策提言の方法を知りたい、実施したいと考える一般市民。

6. 参加人数

延べ、56名

【第1回講演会】 20名

【第2回講演会】 21名

【第3回意見交換会】 10名

【行政への提言】 5名

7. 事業の成果

【第1回講演会】では、「#保育園に入りたい」キャンペーンの発起人である天野妙氏に、キャンペーン活動で蓄積された情報・知見について講演頂き、待機児童問題の「現状の把握」をした。そこで、待機児童のカウントは、入園申請者が母数となるため、申請をしていない潜在的なニーズについては把握できないという課題が浮き彫りになった。引き続き行われたワークショップでは「なぜ待機児童が問題なのか」について意見交換した。議論を通して、待機児童は当事者だけの問題でなく、地域の課題、社会の課題であるという共通認識を持つことができた。

【第2回講演会】では、地域でつながる・頼り合い子育ての仕組み「子育てシェア」を作り出した、(株)AsMamaの甲田恵子氏にご講演頂いた。ワークショップでは「待機児童をなくすにはどんな仕組みがあったらいいのか」に取り組み、既存のファミリーサポート事業についての改善案や、地域や世代を超えて頼り合える仕組み、保育士の処遇改善など多岐にわたるアイデアが出た。具体的にはハードにこだわるのではなく、既存の仕組みを利用しやすくするソフト面の充実させる方法や、地域の頼り合いの拠点である居場所と見守りの仕組みなどが挙げられた。

【第3回意見交換会】では、最初に市民が社会（行政）に声を届ける方法について、元浜松市役所職員の石井真人氏から講義を受けた。本事業では、「待機児童ゼロの実現」と銘打って活

動してきたが、本来の目標は「希望する人全員が預けられる社会の実現」であり、そのためには、潜在的なニーズを含む「待機児童数の把握ができていない」ことが一番の課題であると結論づけた。

また、多様な保育ニーズの受け皿として、ファミリーサポート事業が有効であるが、現状は、まかせて会員の不足や、煩雑な登録・利用の仕組みで、利用数の伸び悩んでいるところに着目した。今回行政へ提出する要望書は、「待機児童数の把握」、「広域連携も視野にいたるファミリーサポート事業の充実」について、要望をまとめることにした。

清水町への要望書には、①「潜在を含む入所を希望する児童数」把握のためのアンケートの実施や、②ファミリーサポート事業の充実を挙げた。②の具体案としては、広域連携を視野に三島市、清水町、長泉町におけるファミリーサポート事業の公開会議（子育てサミット）を開催することを盛り込んだ。今回の事業を通して、自分たちで「社会に声を届ける」目標を達成することができた。この「できた・できる」という体験を、次のステップに活かしていきたい。

当会自体はまだ発足してから日の浅い団体であるが、今回の要望に関連したアンケートの実施や子育てサミットの開催などで実績を積みながら、「社会に声を届ける」ことに多くの人の関心を集め、女性の社会参画・政治参画に繋がり、足がかりのお手伝いをしていきたい。

8. 今後の展望

「保育の必要量の見込み」に関するアンケートを実施し、保育園への入園申請をしていない潜在的な保育を必要とする児童（将来含む）を把握する。またその結果を行政と共有する。

周辺市町（長泉町、三島市の予定）へ同様の要望書を提出する。

東部地域での広域連携を視野に入れ、三島市・

清水町・長泉町におけるファミリーサポート事業の公開会議を開催する。

定期的に政治カフェを開き、女性の政治参画の拡大を促進する。

9. 協働団体

・ Power up Fuji (富士市) 男女共に生きやすいまちづくりを目指す団体

代表: 小櫛和子氏

【後援】WIN-WIN の会 (東京都) 議員になりたい女性を後押しする政治団体

代表: 赤松良子氏 (元文部相大臣)

10. その他 (アンケート結果)

【第1回講演会】

・ 天野先生のお話しがとてわかりやすく、バックグラウンドの理解がスムーズだった。全国的な話も知ることができたのも「国策」の重要性へつながった (30代女性)

・ 天野先生の講義、大変参考になった (石井真人さん)

・ 天野さまのお話、とても勉強になった。データと体験談もありわかりやすかった。ワークも少人数交流することができ参加してよかった (30代女性)

・ 個人や地域だけでなく、国や社会の問題として考えることができた (30代女性)

・ 自分の課題ではないと思っていたが、待機児童の問題はそのもだけでなく、様々な社会問題につながっていくことを感じた (50代女性)

・ 天野先生のお話が大変勉強になった。声をあげることの大切さがわかった (50代女性)

・ 改善に向けた具体的な行動の仕方がとても参考になった。アンケート情報も当事者の声として本質がなんであるかをとらえる材料としてよいものになった (50代男性)

・ 自由に好きなときに子供が産めない現状では、少子化は解消できない! 預け先をまず増設する

こと! 保育者の補償をあげる等が必要だと思う (50代女性)

【第2回講演会】

・ 未婚のため知らない知識が多かったが、『知る』ことができた。現実を知ることの重要性を感じた (30代女性)

・ 参加しなければ知らないままで通り過ぎてしまう問題も、知ると自分にも・仕事にも活きるテーマだった。 (40代女性)

・ 子育てが一段落すると、忘れてしまったり、関心がなくなってしまうので、後に続くママたちのためにも声を挙げていくことは大事だと思った (30代女性)

・ 色々な立場の人の意見が聞けて良かった (30代女性)

・ アズママの仕組みが素晴らしい、ここでもっと使えたらいいのにと感じた (30代女性)

【平成29年度より子ども労働者保護事業】
社会に声を届けよう

待機児童
ゼロ
の実現

第1回
2017年10月22日(日曜日)
13:30~15:30
どうしてこんなに入れない?
【日本の保育園の現状】
高岡会社Request each other代表
講師 天野 妙さん
3人の子の育児経験があるワーキングマザー。
「子育て圏に入りたがり」シンポジウム司理人。
市野史の「地域実証型プロジェクトチーム」会長に就任。
フライアウトでは、育児と認知症の関わりをテーマに講演中。

第2回
2017年11月12日(日曜日)
13:30~15:30
頼り合える地域づくりのために
【地域をつなぐ子育て】
株式会社Aizuma 代表取締役社長
子どもが親の頼りや近所の人々の助けで育つという、
地域で子育てが実現するコミュニティを築く。
「子育てシニア」を推進する。
株式会社Aizuma「アズママ」代表。

待機児童対策の現状と
課題を把握
参加者の方々と
一緒に考える意見交換会

参加者の方々と
一緒に考える意見交換会
Aizumaがでるまで

■ 参加無料 ※託児はありませんが、同伴はできます。
「待機児童ゼロ」目標の現状を把握し、
頼り合える地域作り。
地域をつなぐ子育てについて一緒に考えましょう。
【注】男女共同参画ネット三島ササおわ
【協】Power up Fuji
【後】WIN-WIN の会
【注】アズママ事務局プレゼント
【問い合わせ】mimono.shizoka@gmail.com

【場所】三島市民文化会館(第2会議室)

三島市民文化会館
〒410-0801 静岡県三島市三島1-1-1
電話 054-862-1111
三島市民文化会館
三島市民文化会館